香友会わかば奨学生の今

平成19年度にスタートした学生会員（在学生・在校生）を支援する「香友会わかば奨学金制度」は、「学園の建学の精神と教育理念を基に、それぞれの専門性を生かした社会活動を目指して学業向上に意欲的に取り組んでいる学生・生徒」に対しその目的を達成するための費用を授与するもので、これまでに164名が認定されています。今回、平成24年度から令和2年度までの奨学生の中から、5名の方に現在の様子について寄せていただきました。

第6回（平成24年度）
香友会わかば奨学生

ルモアン 直美

学部二部平成26年卒業

IT企業で障がい者チームの管理者として働くかたわら、フランス人の夫の造るフランス産ナチュラルワインの輸入卸販売をおこなっている。㈱ルモアン東京代表、enchanté ～つながりのはじめまして代表、女子栄養大学特別講師・生涯学習講師、三鷹市市民協働センター理事

自分の価値観を広げ人生を豊かにしてくれる最高のテロワール（環境）香友会わかば奨学生

人の暮らしや環境のことで何かできたらと考えて女子栄養大学二部に編入学した私。香友会わかば奨学生認定は、私が初めて手にした嬉しい「自信」と「後ろ盾」でした。大学やまちの人からの協力を得て地域で「健康」、「食」、「国際交流」をテーマしたゆるやかなつながりの場づくりの活動を始めることができました。

三鷹駅前での毎週日曜日のラジオ体操やごみ拾いのコミュニティづくりの活動は、参加延べ人数6、000人を超え令和3年で丸10年を迎えます。令和元年には先進的な環境活動として市長表彰されました。

女子栄養大学とのつながりでは、特別講師として毎年「健康と運動」をテーマにした地域活動のお話をしています。令和元年から2年間は、非常勤講師として「地域活動論」の授業をさせていただきました。外国人留学生や旅行者に「和食」を紹介しながら料理を作るイベントでは、女子栄養大学の学生インターンシップを受け入れてきました。その料理イベントが認められ、平成30年に卒業生が主催する料理教室として認定されています。

環境問題に対する意識や価値観に意気投合したフランス人ナチュラルワイン醸造家との結婚後は、地産地消で地元野菜を使ったフランスの家庭料理を楽しむ会を続ける中で、ワインに興味を持ってくれる人も増え、平成30年にワインの輸入卸通販の会社を起業、直販という夢を叶えることができました。

みなさんのご厚意にお返しできたらと考えていた所、三鷹市が市民からの政策提案論文執筆の研究員を募集していました。そこで「まちづくり研究員」になり、令和3年4月にグループで「食と農で描く、自然と調和したまちの物語―学校給食への地場農産物使用と有機化の促進について―子どもたちにつなぐ『みたか100年の森』の未来像」という提案論文を市へ提出しました。生態系のような総合的なつながりのある場として「みたか100年の森」という未来像を描いたもので、その企画が協働研究事業に採択され、プラットフォームの構築、学習会やシンポジウムを計画し、具体的に取り組んでいく土壌を整える活動を始めています。

その活動が三鷹市を動かし、市が設置した「持続可能な都市農業に向けた研究会」の研究員としての委嘱を受けました。

「みたか100年の森」みたかのまちの未来像

私の夢である「人の暮らしや環境に対するアプローチ」。その実現にまた大きく踏み出すことができました。

はじめは想像すらしていなかった事が現実のものとなっています。香友会わかば奨学生になることは、ワインで例えると最高のテロワール（環境）に身を置くこと！　勇気を持って行動し、自信をもって夢を叶えていってほしいと思います。

第7回（平成25年度）
香友会わかば奨学生

小岩井　馨

大学院修士平成26年修了
大学院博士平成31年修了

長野県内で行政栄養士として2年間勤務後、大学院博士課程に入学。大学院での指導教員は武見ゆかり教授。現在は女子栄養大学公衆栄養学研究室　助手

教育と研究を進めて支援をつなぐ

大学院博士後期過程修了後、現在、女子栄養大学栄養学部で助手として勤務しています。主に公衆栄養学、栄養教育論関連の実習準備や教育補助を担当し、栄養教育論実習・食教育実習では、栄養教育・食教育の企画・ロールプレイに対する指導補助や、行政栄養士の経験を活かした模擬ロールプレイングをおこなっています。

また大学院での研究テーマであるultra-processed foods（以下「UPF」）の利用に着目した研究を継続しておこなっています。UPFとはインスタント食品等のそのまますぐに食べられるような加工食品です。国外では、UPFの利用が多いことと望ましくない食物摂取や健康状態との関連が多く報告されています。博士後期課程在学中に、日本の壮中年期でも、UPFの利用が多い者は、飽和脂肪酸エネルギー比率が高い一方、食物繊維の摂取量が少ないことを報告しました（Koiwai K, Takemi Y, et al. Public

Health Nutrition, 2019)。そして、助手1年目の時に、国際学会（Asian Congress of Nutrition, 2019）で、UPFの利用が多いことは肥満のリスクにつながる可能性があることを発表しました。初めての国際学会での口頭発表はとても緊張しましたが、大学院から継続してきた研究成果を報告することができ、自分のステップアップになる貴重な体験でした。国際学会発表後、発表内容をブラッシュアップさせて、国内の学術雑誌に投稿し、掲載されました（小岩井馨、武見ゆかり、他・日本公衆衛生学雑誌、2020）。また令和3年の夏より、UPFと食塩摂取の利用の関連を明らかにするために、女子栄養大学栄養科学研究所奨励研究助成を受け、新たに介入研究を始めています。

在学中にわかば奨学生に認定いただき、研究や授業に専念することができました。そして研究や授業を通して、科学的根拠の収集方法と読み取る力、地域の実態把握・課題分析をする力、ニーズに応じた支援方法を考える力等、多くの力を得ました。大学院での学びや得た力は、行政栄養士の勤務、現在の勤務や研究の際に大いに役立っていると実感しています。ご支援に大変感謝しております。今後は、いただいたご支援を何かの形で他の方へつなげるよう、自分が得た知識や力を活かして、学生の皆さんがより良い学びを得られる環境を更に整備しながら、公衆栄養学分野の研究の発展にも貢献できるよう努めていきたいと考えています。支援の輪が広がっていくことを心より願っています。

国際学会(Asian Congress of Nutrition, 2019)で武見ゆかり先生(左)と一緒に

第8回（平成26年度）
香友会わかば奨学生

村岡春菜
学部平成27年卒業

養護教諭として平成27年より静岡県御殿場市立高根中学校、平成30年より静岡県御殿場市立神山小学校にて勤務

感謝を忘れることなく

「うわーん！痛いよー！転んだー！」
「頭が痛いです。辛い……。」
「先生見てー！シロツメクサの髪飾り作ったよ！」

保健室にいると、こんな声が聞こえてきます。今私は養護教諭として小中学生の子どもたちと向き合っています。保健室には、けがや体調不良はもちろん、悩みを抱えていたり、なんとなく話を聞いてほしかったりと、毎日様々な理由で子どもたちが来室します。対応に悩むことも多く反省の連続ですが、子どもたちの笑顔を見ると、やはりこの仕事に就くことができてよかったなと感じます。

香友会わかば奨学生に認定していただいた当時を振り返ると、実習や試験の準備で慌ただしい中、本当に嬉しかったのを覚えています。応募したのは、養護教諭に必要な知識を得るためのスキルアップが一番の目的ですが、両親への恩返しもその1つでした。大学に通わせてくれ、静岡県を離れ下宿までさせてくれた両親には感謝してもしきれません。高校生の頃は両親に反抗的な態度ばかりで、本当に苦労を掛けたと思います。認定をいただいたことを両親に報告すると、大変喜んでくれました。

当時感じたことは、私は本当に多くの方々に支えていただき、養護教諭になりたいという夢を追いかけることができているのだということです。奨学生の選考は実習などで忙しい中ではありましたが、友達や先輩が励ましてくださったからこそ乗り越えられたのだと思います。今、夢が叶って養護教諭になることができたのも、大学入学を通して出会った多くの方々が支えて応援してくださったおかげです。専門的な知識を学ぶことで自信につながったのはもちろんですが、素敵な友達や先輩に後輩、先生方との出会いが未熟な私を成長させてくれました。新型コロナウイルスの流行で、会いたい人に会えるのは幸せなことだったと実感します。早く友達に会ってたわいもないことを話したいし、先生方にも近況報告をしたいです。一日も早く流行が収束することを祈るばかりです。

こんな時だからこそ、香友会という卒業生のつながりがあるというのは心強さを感じます。定期的に届く「香窓」は、心温まる懐かしい気持ちにしてくれ、学生のみなさんや先輩方の活躍に、「私も頑張らないと」と励まされます。

まだまだ未熟者ですが、認定をいただいた時の気持ちと感謝を忘れることなく、養護教諭として努力し続けたいです。そしていつか、誰かを支えられるような存在になれるよう、頑張りたいです。

ティーム・ティーチングでの保健の授業

第10回（平成28年度）
香友会わかば奨学生

井上さくら
学部平成29年卒業

養護教諭として平成29年度より香川県三豊市内の小学校で勤務。令和2年度より三豊市立上高瀬小学校にて勤務

わかば奨学生に認定されて

毎年、セミが力強く鳴き始める暑い時期になると、5年前の夏に香友会わかば奨学生に選んでいただいたことや教員採

香友会わかば奨学生の今

用試験の2次試験に向けて友人たちと励まし合いながら勉強をしていたことを思い出すので、私にとって、夏はとても特別な季節になっています。

大学3年生の時に担任の先生から、わかば奨学生の応募について勧めていただき、地元香川県での教員採用試験に向けての準備の一つになればと思い応募しました。認定を受けた時は嬉しさと同時に「採用試験に絶対合格する」という2つの気持ちが自分の中にあったことを覚えています。

採用試験が近くなった頃、ホームカミングデーに招待していただき、諸先輩方と交流をさせていただきました。たくさんの諸先輩方に励ましの言葉をいただき、女子栄養大学を卒業してもなお続く、つながりの強さを実感し、女子栄養大学で学べたことやわかば奨学生に応募したことを心からよかったと思いました。

保健の授業の様子

現在は、地元香川県で念願だった養護教諭として採用され、5年目となりました。昨年、初めての異動を経験し、現在は全校生208名の小学校で勤務をしています。昨年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、臨時休業を余儀なくされるなど、学校現場が混乱する中で、子どもたちの健康管理・心のケア・感染症対策と一気にいろいろなことが押し寄せ、とても大変な1年間でした。5年目の今年は、初めて兼職発令を受け、3年生と4年生の授業を担当しています。初めての授業は緊張もし、課題もまだまだたくさんありますが、保健室での関わりとは違った子どもたちの様子を感じることができ、子どもたちとともに学ぶことの楽しさも実感しています。

これからわかば奨学生に認定される皆さんは、コロナ感染症の影響もあり、私の学生時代とは違った大変さや困難さ、不安があると思います。その中でも、学びを止めることなく、自分の目標に向かって進んでいっていただけたらと思います。

香友会とこれから香友会わかば奨学生に認定される方々の益々のご活躍を、遠くの地より応援しています。

第13回（2019年度）
香友会わかば奨学生

江副貴子

令和2年専門学校調理師科卒業
令和3年専門学校製菓科卒業

管理栄養士として福岡県宇美町教育委員会学校教育課に勤務。退職後、香川調理製菓専門学校に入学。卒業後、顧問管理栄養士・調理師として三省製薬株式会社に勤務

充実した学園生活を香友会で繋げる喜び

香友会わかば奨学生の認定をいただいた当時は毎日が挑戦の連続。学内でおこなわれていた朝夕の自主練習では、古川校長先生をはじめ諸先生方から直接ご指導いただけるありがたくも充実した時間でした。そこでは、志高い若い仲間との出会いがあり多くの刺激をいただくことができました。そんな恵まれた環境にあるにも関わらず、思うように上達しない自分の調理技術を顧みては、悔しい思いを沢山しながら毎日を送っていたなあと懐かしく思い出します。

56歳で卒業した私は、地元福岡にある三省製薬株式会社（化粧品製造販売）に顧問管理栄養士・調理師として入ることができました。現在は、福岡市今泉にある「DERMEDショールーム」内のジュースタンドにて「身体の中からも美しく」をコンセプトにコールドプレスジュースをお客様に提供しています。店舗では、メニュー開発や衛生管理、お客様への栄養相談会を実施し、人と人との繋がりの中に「香川」で学んだ食への思いをもちながら接客ができる事に幸せを感じています。

メニュー開発にあたっては、色、味、効能、ストーリー性の特徴がでるよう工夫しました。また開発中は、社内での会議を経たり大学時代の恩師を訪ねたりしながらジュースの評価をいただいては、改良を重ね、私なりの「メニュー開発ストーリー」を体験することができました。

完成したコールドプレスジュースは、5種類で生姜のパンチが効いて美肌効果が期待できるレッドグロッシー、アンチエイジング効果が期待できるオレンジアクティブ、甘酒とミントの組み合わせが斬新で美白効果が期待できるイエローブライト、キウイとセロリのハーモニーが楽しく美腸効果が期待できるグリーンクレンズの4種類に加えて、期間限定のコールドプレスジュース（ちなみに8月後半は、福岡県産のいちじく、なし、豆乳、ヨーグルト、オリゴ糖のジュース）です。これからも「肌から人生を美しく」を掲げながら美容と健康にいいジュースを提案し多くの人を幸せに導きたいと思います。福岡においでの際は、ぜひ「DERMEDショールーム」にお立ち寄りください。「香川」の思い出話を一緒にしながら食への思いを語りあいましょう。

「DERMED ショールーム」にて

最後になりましたがこれからも、わかば奨学生の名に恥じないよう、歴史ある香友会会員の皆様と交流させていただき、食の最新情報を得て福岡にある「DERMEDショールーム」より、食と健康に関する情報を発信して参ります。